

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 57人

② 算数 57人

③ 理科 57人

5 留意事項

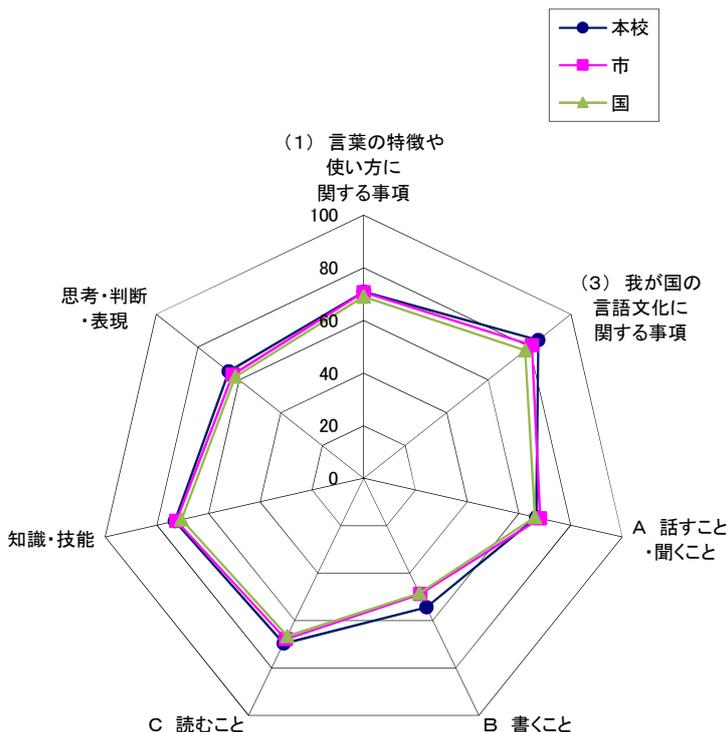
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.9	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.2	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	66.7	68.2	66.2
	B 書くこと	54.4	48.9	48.5
	C 読むこと	69.7	67.9	66.6
観点	知識・技能	73.1	72.5	70.5
	思考・判断・表現	65.1	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

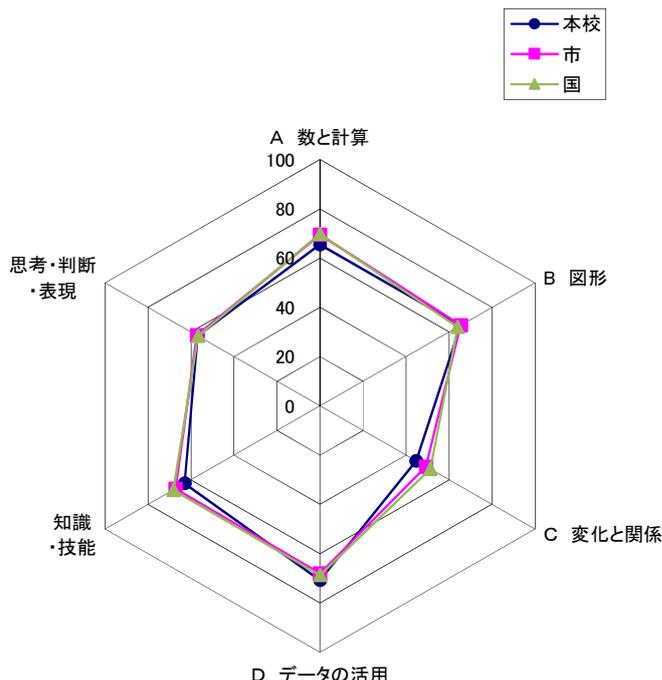
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○話し合いの様子の一部から、発言の理由を選ぶ問題で、国の平均正答率を11.9ポイント上回った。 ●漢字を使って文章を書き直す問題では、すべての問題において国の平均正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・進出漢字を「読むことができる→書くことができる→文章中で使うことができる」のステップを踏み、その定着を図る。 ・普段から、質疑応答の仕方が身に付くよう、聞かれている内容を整理し、適切な応対ができるよう指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○本校の正答率は、国や市の平均正答率を上回った。 ○手紙を書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する問題では、本校の正答率は、国の平均正答率を6.3ポイント上回った。	・手紙を書く時、文字の大小や行の中心に気を付けて書くことが身に付くよう、日頃から罫線やマス目を意識するよう助言していく。
A 話すこと・聞くこと	○話し合いの様子の一部から、相手が知りたかったことの説明として適切なものを選択する問題では、本校の正答率は、国の平均正答率を3ポイント上回った。 ●「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、文章中でどのように話すか、自分の考えをまとめる問題では、国の平均正答率を2.1ポイント下回った。	・自分の考えを端的にまとめることができるよう、普段から自分の言葉でまとめを書いたり、要旨を書かせたりするなど、教科横断的に話す・聞く力が身に付くようにしていく。 ・自分の書いた内容を相手に伝える練習を適宜入れ、表現力の向上を図る。
B 書くこと	○本校の正答率は、国や市の平均正答率を上回った。特に、文章の冒頭部分をどのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する問題では、国の平均正答率を11ポイント上回った。 ●自分の文章のよさをふり返り、そのよさを文章で書く問題では、国の平均正答率を0.9ポイント上回ったものの、本校の平均正答率は38.6%だった。	・自分の意見をはじめに主張してから、理由や根拠を述べていく作文指導を今後も引き続き行っていく。 ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていき、自己肯定感を高めていけるよう、交流を増やしていく。
C 読むこと	○物語から伝わってくることを考え、文章中に入る内容を書く問題では、本校の正答率は、国の平均正答率を5.4ポイント上回った。 ●登場人物の相互関係について、描写を基に捉え、適切なものを選択する問題では、本校の正答率は、国の平均正答率を0.4ポイント下回った。	・様々なジャンルの文章を読む機会を設けたり、本の紹介をさせたりすることで、読むことに慣れ親しませる。 ・国語の授業で、文章構成や筆者の考えなどをしっかりおさえ、どの物語でも対応できるよう指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.5	69.5	69.8
	B 図形	65.4	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	44.7	49.3	51.3
	D データの活用	70.8	68.0	68.7
観点	知識・技能	63.0	67.3	68.2
	思考・判断・表現	56.9	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

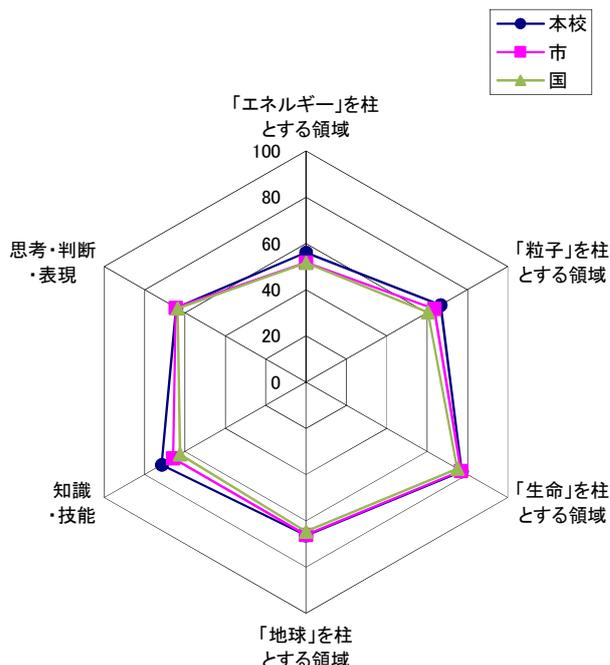
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○「85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断する」問題の本校の正答率が36.8%で国の平均正答率を2ポイント上回った。</p> <p>○「表の意味を理解し全体と部分の關係に着目し、ある項目に当たる数を求める」問題の本校の正答率が80.7%で、国の平均正答率を5.4ポイント上回った。</p> <p>●「2つの数の最小公倍数を求める」問題では本校の正答率が54.4%で、国の平均正答率を17.8ポイント下回った。</p>	<p>・朝の学習の時間や習熟度別指導の時間等を活用して、最大公約数や最小公倍数を形式的に求める問題に偏ることなく、具体的な場面や日常の場面に即した問題を数多く練習することにより様々な問題に対応する力を養う。</p> <p>・今後も、朝の学習の時間や、家庭学習で、繰り返しドリルやAドリルを活用し基礎的・基本的な計算の定着を図る。</p>
B 図形	<p>○「正三角形の意味や性質を基に角の大きさに着目し、正三角形をかくことができるプログラムに書き直す」問題では、本校の正答率が57.9%で、国の平均正答率を9.1ポイント上回った。</p> <p>○「辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるか選ぶ」問題の本校の正答率は66.7%で、国の平均正答率を上回った。</p> <p>●「示されたプログラムの中からどのような図形を描くことができるか選ぶ」問題では、本校の正答率が54.4%で国の正答率を3.2ポイント下回った。</p>	<p>・朝の学習の時間や習熟度別指導の時間等にタブレットを活用し、実際に図形を描くプログラムを作ったり、5年生の図形のプログラミングなどの活用を図り、図形を描いたりする力の定着を図る。</p> <p>・平面図形を構成する要素及びそれらの位置關係に着目し図形の構成の仕方を考察したり、図形の性質についての基礎知識を身に付けたりすることができるよう指導する。</p> <p>・具体物を用いた活動の時間を十分に確保し、図形についての感覚を豊かにできるように支援する。</p>
C 変化と関係	<p>○「伴って変わる2つの数量が比例の關係にあることを用いて果汁が30%含まれている飲み物の量を求める」問題では、本校の正答率が49.1%で国の平均正答率より1.1ポイント上回った。</p> <p>●「果汁が30%含まれている飲み物の量を半分にした時の果汁の割合を求める」問題では、本校の正答率が14%で国の平均正答率より7.4ポイント下回り、「果汁が25%含まれる飲み物の果汁の量を分数で求める」問題では本校の正答率が52.6%で国の平均正答率を18.5ポイント下回った。</p>	<p>・問題場面から基準量、比較量、割合をとらえることができるようにすることが大切である。割合の表し方を理解し、百分率を求めることができるよう、復習を十分に行う。また、日常生活を想定した問題に数多く取り組み習熟を図る。</p> <p>・習熟度別学習など、児童の実態に応じ、読解力や思考力を要する教科書の巻末問題などを活用しながら個別に支援する時間を確保していく。</p>
D データの活用	<p>○「表の意味を理解し、全体と部分の關係に着目して、ある項目に当たる数を求める」問題では、本校の正答率が80.7%で国の平均正答率を5.4ポイント上回った。</p> <p>○「分類されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する」問題では、国の平均正答率を4.5ポイント上回った。</p> <p>●「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」問題では本校の正答率が63.2%で、国の平均正答率を3.6ポイント下回った。</p>	<p>・算数の授業だけでなく、社会科や理科、総合的な学習など他教科でも、目的に応じてグラフを選択したり、必要な情報を読みとったり分析したりして、データの活用力の向上を図る。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	56.1	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	66.7	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	77.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	66.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	71.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	64.3	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○反射した光の進み方を基に実験の結果を見出す問題では、本校の正答率が、国の平均正答率を7.3ポイント上回った。 ●実験の改善点を正しく捉え、その説明を記述する問題は、本校の正答率が、国の平均正答率を2.2ポイント下回った。	・鏡など使う経験の少ない物を扱うような実験では、様々な試行する機会を設けて理解を促していく。 ・学習を通して得た知識を、実際の自然や日常生活に当てはめて考えられるように助言したり、2つ以上の現象を関連させて考えるような課題をより多く出題したりして、科学的思考を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	○凍った水溶液について結果とは異なる実験を見出して記述する問題では、本校の正答率が、国の平均正答率を2.8ポイント上回った。 ●メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取る問題では、本校の正答率が、国の平均正答率を3.3ポイント下回った。	・実験の結果をもとに考察する場において、結果を追究したり発想を広げたりできるような問いかけをするとともに、考えを文章化できるよう今後も支援していく。 ・毛細管現象により水面が下がることを、体験を通して理解させるとともに、正しい器具の扱い方や測定方法など、実験の基礎が身に付くよう指導していく。
「生命」を柱とする領域	○カブトムシの育ち方と食べ物を基に分類する問題では、本校の正答率が、国の平均正答率を9.9ポイント上回った。 ○育ち方と主な食べ物を基に資料に沿った課題を見出す問題では、本校の正答率が、国の平均正答率を5.2ポイント上回った。 ●課題に合う観察記録を選ぶ問題では、本校の正答率が、国の平均正答率を4.9ポイント下回った。 ●観察記録をもとに、ナナホシテントウの育ち方を記述する問題では、本校の正答率が、国の平均正答率を2.6ポイント下回った。	・昆虫の生態と特徴による分類への理解度が高い。今後も身近な生き物について観察や実験といった体験的学習の場を設け、科学的な見解を高められるよう指導していく。 ・考えや根拠を記述する力を向上させるために、実験や観察に対する考察などの記述の場を設けていく。
「地球」を柱とする領域	○水蒸気が冷えて水や氷になる現象に関する問題は、本校の正答率が、国の平均正答率を9.9ポイント上回った。 ●天気の違いによる冬の一日の気温の変化の特徴を捉える問題では、本校の正答率が、国の平均正答率を3.4ポイント下回った。	・水の形態の変化などの自然現象をよく理解している。今後も身近な自然現象に目を向け、発見や探究を重ねていくよう問いかけや助言をしていく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じ時間くらいの時刻に寝ている・起きている」と回答した児童はともに約9割で、「みはらの決まり」を基にした日常の指導の成果と考えられる。

○「自分にはよいところがある」と回答した児童は83.6%、「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と回答した児童は94.1%と、ともに国の肯定的回答割合を上回っている。本年度の学校課題でもある「自尊感情の醸成」ともかかわる部分であり、今後も児童のよさを伸ばし自尊感情の醸成を図ることを念頭に全校体制で指導に当たりたい。

○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答した児童が64.2%だった。これは、国の肯定的回答割合を12.9ポイント上回っている。昨年度まで取り組んできた学校課題(道徳)の成果だと考えられる。今後とも、社会の一員としての資質を養うべく、道徳をはじめとして清掃指導など日常の指導の中で意識して働きかけていきたい。

●「話し合い活動で自分の考えを深めたり広げたりしている」という質問に対して、本校の肯定的な回答は65.6%で、国の肯定的回答割合より14.5ポイント低くなっている。

●「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」という質問に対して、肯定的な回答は74.6%である。これは国の肯定的回答割合より12.6ポイント低くなっている。

指導の工夫

・話し合い活動に安心して参加できるように、自分の考えをまとめる時間を確保し、その理由も考えさせる。話し合い活動の際は、傾聴の態度を確認する、聴くポイントを確認する(自分の意見との相違・気づき)などを学習活動全般で指導していく。

・自分のよさを更に伸ばすだけでなく、根気強さなど苦手なことの改善にも目を向けさせるため、「努力すべきポイント」などを明確にして、指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学びで思考力・表現力を育てる授業作り	課題意識が高まる教材と問題との出会い、発問の工夫(導入の重視) 活動内容に応じて、ペアやグループ等の学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度を育成	授業で「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」に肯定的回答をした児童の割合は、国の肯定的回答割合を0.4ポイント上回っている。「友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか」の肯定的回答割合は65.6%で国の肯定的回答割合を下回っている。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	授業での「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示とその活動の工夫 分かりやすい板書とノート指導の工夫 習熟度別学習や少人数学習、TT、朝の学習時の担任外の個別指導等の効果的な実施	基本的な知識技能を問う問題の正答率は、国語と理科では、県や全国を上回ったが、算数ではやや下回った。「授業の内容がよく分かる」と答えた児童の割合は、3教科とも全国の平均を上回り、「分からない」と答えた児童の割合は全国の平均を下回っていた。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示	「家で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答割合は、77.6%で全国の平均を6.5ポイント上回っている。授業以外に1日当たり1時間以上勉強する児童の割合は、61.2%で、全国の平均を1.8ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述問題など、自分の考えをまとめ、分かりやすく表現する力に課題が見られる。	目的やめあてに合わせて、自分の考えをもち、表現する活動の工夫	・各教科において、自分の考えを書いて表現する活動を多く設定する。 ・自分の考えをしっかりとるようになるために、情報を正しく理解したり、目的に合ったキーワードを捉えたりできるよう支援する。